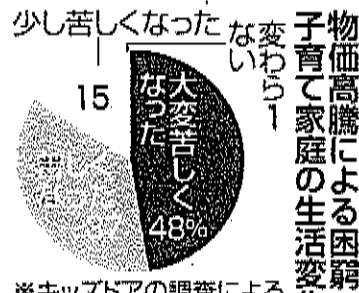


子育て困窮世帯「苦しくなった」85%

物価高の影響調査



※キッストアの調査による、四捨五入のため合計は100%にならない

物価高騰による困窮
子育て家庭の生活変化

もがいて生活困難な保護者千三百八十六人がネットを通じたアンケートに回答した。

物価高騰で生活が苦しくなったかを尋ねた質問では「大変苦しくなった」が48%、「苦しくなった」が37%だった。子どもの食事状況を複数回答で聞いたところ、「食事の質(栄養バランス)が悪くなった」が64%と最多で、「食事のボリュームが減った」(60%)、「肉や魚が買えない」(37%)と続いた。

夏休み中の食事には八割以上が不安を抱えており、「家計は切迫し、おかずがある食事は一日一度になりそつだ」との声があった。

団体の広報担当者は「新型コロナウイルス禍による苦境に物価高が追い打ちをかけている」と指摘。夏休みに二千五百世帯に食料

を配布するため、八月三十一日までに一千万円を目標にクラウドファンディングを実施する。

生活に困窮する子育て世帯に、支援団体が物価高騰の生活への影響を調査したところ、「大変苦しくなった」「苦しくなった」との回答が85%に上ることが分かった。子どもに給食がない上、家にいる時間も長くなって光熱費がかかる夏休みを前に不安を訴える声が強まっており、団体では食料支援を行うためにインターネットで資金を募るクラウドファンディングを始めた。

調査をしたのは、貧困問題に取り組む認定NPO法人「キッストア」(東京)で、十八歳以下の子ども